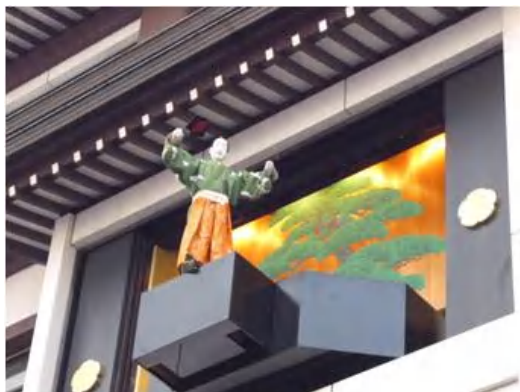


名古屋市・多彩な文化が交錯するまち、大須

～独特の下町情緒が売り～

日本不動産研究所 東海支社
不動産鑑定士 岡崎 智子

ご当地アイドル OS☆U、コンピューター制御のからくり時計「信長」、全身金色の男女が境内を舞う大須観音金粉ショー。今回は、多彩な文化が交錯する賑わいのまち、名古屋大須をご紹介します。



「コンピューター制御のからくり時計『万松寺・信長』」



「大須仁王門通」

大須地区は名古屋駅から南東へ約 2km に位置する商業地域で、古くは寺町として栄えました。かつて徳川家康が名古屋城築城を決定した際、これに伴い周辺の城下町には武家屋敷や町屋など様々なものが移転しました。大須境界は名古屋城下の南寺町として指定され、多くの神社仏閣が集積しました。のちに大須観音が現在の岐阜県から移設され、周辺地域は門前町として発展し、大須と呼ばれるようになりました。



「享保十四酉年名護屋絵図より大須周辺（愛知県図書館所蔵）」

大正時代に入り、万松寺が領有地の多くを民衆に開放したことをきっかけに、大須は商店街としての性格を強めていきます。名古屋有数の歓楽街となり、演芸場や映画館、遊郭などが設けられ、多くの人で賑わいました。その後、昭和の戦後復興事業により名古屋ではいわゆる100m道路などが整備されましたが、中心繁華街が分断され大須地区の人の流れは減少しました。都市計画による新しい都市の変化からは取り残されましたが、一方で、大須は独特の下町風情を残すまちとなりました。



「大須観音」



「万松寺通り」

現在、大須周辺は多彩な賑わいを見せており、「ごった煮」的な商店街としばしば形容されています。大須観音・万松寺・清浄寺など多くの寺社が集まる寺町、家電・パソコン販売店の集積する電気街、メイド喫茶発祥の地との説もあるオタク街、歴史ある寄席の大須演芸場など、さながら巣鴨・秋葉原・浅草がコンパクトに混在したような雰囲気を醸し出しています。

また、年間を通して個性的なイベントが開催されていることも大須の魅力のひとつです。夏には世界コスプレサミットやサンバパレード、冬には節分祭や境内で牛乳がふるまわれるスジャータ祭りが開催されます。去る10月19・20日には、信長・秀吉・家康の三英傑行列で有名な名古屋まつりが市中心部で開催されましたが、同じ日に大須では大道町人祭りが催され、大須観音の境内には大道芸やおいらん道中、金粉ショー、お化け屋敷などが繰り広げられ、付近一帯は混沌とした熱気に包まれました。

名古屋駅周辺の大型ビル開発の陰で、下町情緒豊かさを醸し出す大須へぜひ一度足をお運び下さい。



「大須演芸場」



「全国でも珍しい車歩一体式信号」



「大須大道町人まつり おいらん道中」



「大須大道町人まつり 金粉ショー」